



# Q なぜ、「主体的・対話的で深い学び」が重要なのか？

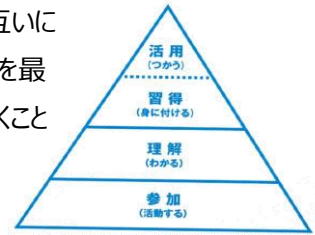
アクティブ・ラーニングの視点から

A 情報化、少子・高齢化等を背景に、変化の激しいこれからの社会において、一人一人の子供たちがよりよく生きていくためには、豊かな感性や生きて働く知識とともに、これからの時代に求められる資質・能力を学校教育で育てていくことが重要だからです。



授業のユニバーサルデザインの視点から

A 学級の「6.5%」が配慮の必要な子供たちであるという実態（文部科学省の調査による）を踏まえ、多様性が認められる教育環境の中で互いに学び合うこと、一人一人の力を最大限伸ばしながら学習していくことが求められるからです。

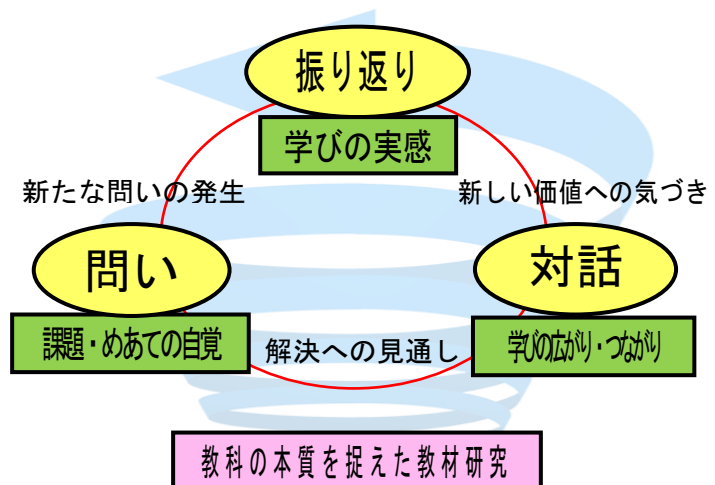


(授業のユニバーサルデザインのモデル図)  
桂聖・小貫悟 (2014) 「文学授業のユニバーサルデザイン」  
東洋館出版

# Q 子供の学びを深める授業づくりに大切なことって何？

A 「問い」「対話」「振り返り」を意識した授業を展開していくことです。子供が問いを持ち、様々なものとの対話を通して考えを広げ、学びを実感していくことが大切です。

A 「教科の本質を捉えた教材研究」により、教科のねらいに迫っていくことです。教師が子供にどのような力をつけたいかを明確に持っていることが、深い学びにつながります。



## ◎教科の本質を捉えた教材研究とは

「各教科における系統性を把握し、指導内容を明確にすること」です

教材研究には、教材分析、子供の実態把握、指導法の研究などがあります。中でも「教材分析を丁寧に行うこと」が大切です。教材分析では、

- ・ 1 時間や単元の中で、何を教えるのかを明確にする
- ・ 単元での学び、学年を通した学び、学年の枠を超えた学びなど系統性を把握する などが大切です。

【A小学校の例】 1 回目の事前検討会では全員で教材分析を行い、それをもとに授業者が指導案を立て、2 回目に指導案の検討が行われていました。このように事前検討会で、教材分析やつまづき予想を丁寧に行う取り組みがなされていました。



教材分析と共に、子供の実態把握やつまづきを予想して、その上で指導法の検討をしましょう。

# ◎「問い」「対話」「振り返り」を意識した授業とは

## 問 い

課題・めあての自覚

「問いを持つ」とは、単に問題や課題を知るのではなく、子供自身が課題やめあてを自分事としてとらえ、解決したいと思うものとなること、つまり課題を自覚することです。

子供たちが学習の見通しやゴールを持つことで、主体的に解決に向かうようになります。

### ◆学びを深める子供の姿や言葉



- ・「なぜだろう？ どうなるのかな？」
- ・「今日はこのことについて考えていこう。」
- ・「前に習ったことを使えばできそうだ。」

疑問・意外性  
めあての認識

既習事項との関連・見通し

### ◇問いを持たせるために

- ・意外性や疑問を持つような課題、生活とつながりのある課題を設定する。
  - ・前時に学習したことや子供が調べたことの中から、疑問を取り上げて課題にする。
  - ・答えや考え方が複数あり、1つに決まらない課題を設定する。
- (例) 福井県の出生率低下の記事から「このまま低下が続くと身の回りでのようなことが起きるだろうか。」 etc

## 対 話

学びの広がり・つながり

自分、他者、教材などの様々なものと対話しながら考えることで、子供たちの中に新しい気づきが生まれます。それらをつないだり取捨選択したりすることによって、より確かなものとなっていきます。

大切なことは、対話によって考えが広がったり広がりやすくなる良さを、子供自身が実感していることです。

### ◆学びを深める子供の姿や言葉



- ・「AとBを比べると、この部分は同じだ。でも〇〇が違うな。」
- ・「みんなの考えを聞いて、どうやら〇〇みたいだな。」
- ・「そんな見方もあるんだ。」

考えの補強・修正・再構成

### ◇学びを広げ・つなげるために

- ・教師が子供のつぶやきや疑問を取り上げて、全員が考えを共有できるようにする。(例) T 「〇〇君は、なぜ〜と考えたんだと思う？」
- ・板書や思考ツールを使って、話し合いのプロセスを視覚化・構造化する。 etc

## 振り返り

学びの実感

「何をどのように学んだのか」「何ができるようになったのか」など、対話の中で広がった考えを整理することで、子供たちは学習したことをより深く理解します。

自分の学びを振り返ることで、子供たちの中に次への意欲や新たな問いが生まれます。学んだことを子供自身が「使える力」としていくことで、より深い「学びの実感」が得られます。

### ◆学びを深める子供の姿や言葉



- ・「今日は〇〇したことで、〇〇が分かった。」
- ・「この方法を使うとできるんだ。〇〇でも使えそうだ。」
- ・「今日は〇〇だったけど、~の場合はどうなるのか調べてみたい。」

学びの整理・実感

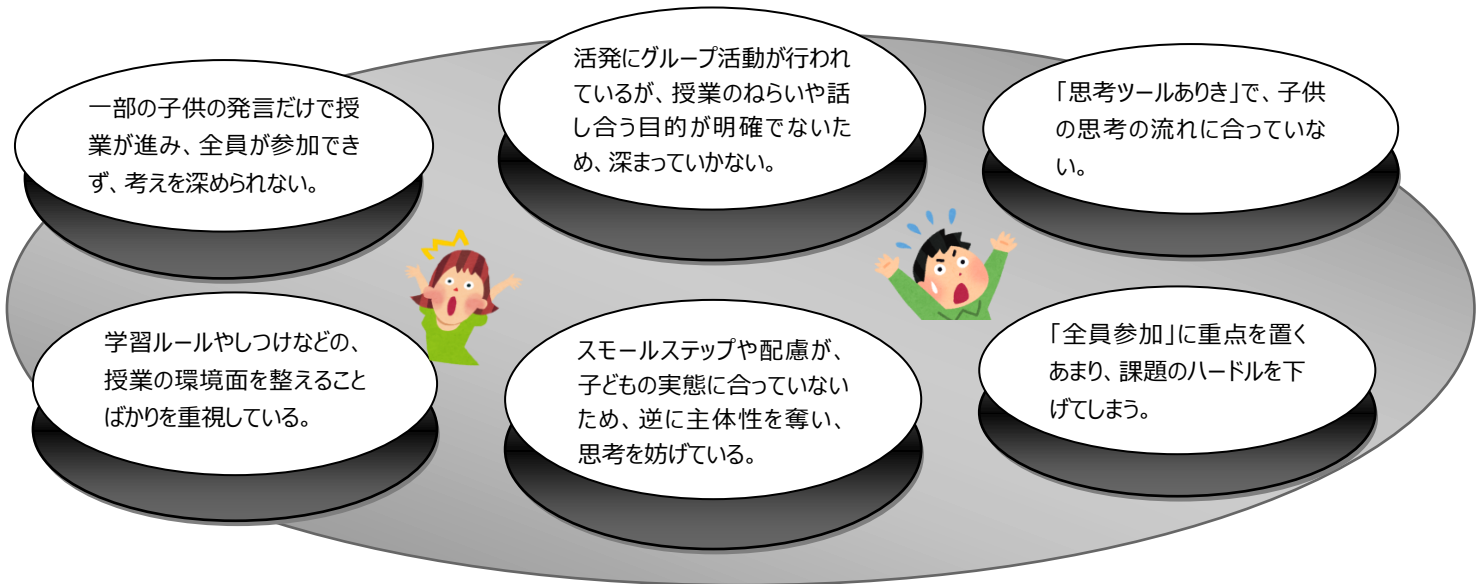
新たな問い、次の学びへの意欲

### ◇学びを実感させるために

- ・振り返りには視点や書き出しを与えて、「何が分かったか」「どのように分かったか」「何ができるようになったか」等、1時間の学びを整理できるようにする。
- ・ねらいにせまる振り返りを取り上げたり、振り返りを伝え合ったりすることで、学習内容の定着と次への意欲や問いを見つける。
- ・1時間の学習内容が分かるように、ノートづくりでは、項目や書き方などを工夫する。 etc

# 子供の学びを深める授業に向かっているかをチェックしてみましょう！

## ◎ あるある！授業の落とし穴 ～こんな落とし穴に陥っていませんか？～



## ◎ 「教材研究」「問い」「対話」「振り返り」で授業改善！

### 教材研究

- 1時間のねらいや単元の系統性を明確にしている。
- 指導法の検討に着目するだけでなく、教材分析や子供の実態把握、つまりき予想をしている。

### 問い

- 学習課題を、子供たちが「解決したい、やってみたい」と思うものになっている。  
(例) ・意外性がある ・自分たちに身近である ・解決する必然性がある
- 「この方法で考えてみよう」という解決への見通しが持てるように働きかけている。

### 対話

- 対話によって子供にどのような力がつくのか、何を理解させたいのかを明確にしている。
- 教師が子供の発言を取り上げて全体に広げ、全員が考えを共有できるようにしている。
- 対話によって広がった考えを、再度、自分の学びにする場や時間を設定している。

### 振り返り

- 振り返りでは視点を与えて、「何が分かったか」「どのように分かったか」「何ができるようになったのか」を子供に実感させている。
- 学んだことを共有して学習内容の理解を図ると共に、疑問や意欲を次の時間へつなげている。

「教材研究」「問い」「対話」「振り返り」の充実を目指し、「研究員と共に進める授業研究」という訪問研修を、学校の研究に取り入れてみませんか。

【問い合わせ】 嶺南教育事務所研修課 訪問研修担当 0770-56-1302